

部位	仕様	自分でできるお手入れ
<p>構造体</p>	<p>基礎・構造体 防蟻処理</p>	<p>地震や台風の直後は構造部に異常がないか確認してください。コンクリートの大きなひび割れや鉄筋の錆汁などを見つけたら、住宅メーカーへ連絡して早めの処置を行いましょう。雨が降っていないのに基礎部分が濡れていたら腐朽の可能性があります。住宅メーカーへ相談しまししょう。シロアリは湿気を好むので、換気口の前に刃物を置かないようにして床下の通気を確保しまししょう。4～7月頃に羽アリを見たら注意が必要です。</p>
<p>屋根 ※足場代（25～40万円）が別途必要になります。</p>	<p>屋根材 シート防水</p>	<p>季節ごと、また台風や地震の直後には次の点に注意して点検を。屋根に上ると危険なので、少し離れた場所から自分の目で見て確認しまししょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●飛来物で傷がついていないか？ ●サびていないか？ ●瓦屋根の場合、瓦が飛んだり、割れたりしているところはないか？ <p>屋根にゴミや落ち葉が溜まった状態で放置すると水はけが悪くなり、雨漏りやサびの原因となります。ホースで水をかけて落とす、さおなどで取り払うなど、屋根に上がらずに安全にできる範囲で、ゴミや落ち葉を取り除きまししょう</p>
<p>外壁 ※外回り部品（屋根・外壁など）は地域環境によってメンテナンス時期が異なります。</p>	<p>化粧カバー・軒天 軒樋等</p>	<p>季節に1度、軒樋にゴミや落ち葉が溜まっていないか、鳥の巣はないか、樋のつなぎ部分が外れていないか確認しまししょう。ゴミや落ち葉が溜まると雨水があふれ、水漏れの原因になることがあります。</p>
<p>外壁 ※外回り部品（屋根・外壁など）は地域環境によってメンテナンス時期が異なります。</p>	<p>外壁材 （塗装・タイル・サイディング）</p>	<p>外壁の汚れの主な原因はほこりです。年に一回は軟らかいブラシや高压洗浄で水洗いして、美しい外壁を長く保ちまししょう。北側の日が当たらない壁や植え込みの近くの壁は、カビ・コケが生えやすいです。見つけたらすぐ落としまししょう。</p>
<p>外壁 ※外回り部品（屋根・外壁など）は地域環境によってメンテナンス時期が異なります。</p>	<p>目地 （コーキング含む）</p>	<p>目地部分には隙間を防ぐためにコーキング材を注入しています。コーキング材は温度や湿度の変化による膨張・収縮、近くを通る自動車による振動などで影響を長期的に受けます。コーキング材が劣化すると目地の隙間から外壁内部に雨水がしみ込んでしまったり、外壁の強度が下がってしまします。定期的に確認が必要です。</p>
<p>バルコニー</p>	<p>防水パン 防水層 （シート防水・FRP）</p>	<p>床に溜まった砂やゴミは防水面にキズをつける原因になります。また排水口が詰まり雨水があふれる原因にもなります。週に一回は掃除をして取りまししょう。ホースで水を流すだけでは汚れが排水口に詰まってしまうのでゴミはチリトリでとるか掃除機で吸い取りまししょう。</p>
<p>外部建具</p>	<p>玄関・勝手口ドア</p>	<p>ドア表面の汚れは一ヶ月に一回掃除しまししょう。表面を傷つけるような研磨剤の使用は避けてください。扉の閉まり速度、音、こすれ等は三ヶ月に一回点検、調整しまししょう。クローザーが油漏れしてきたら交換時期です。</p>
<p>外部建具</p>	<p>アルミサッシ 雨戸・シャッター 電動シャッター</p>	<p>サッシのレールに溜まった砂やほこりはサッシブラシなどでかき出しながら、一ヶ月に一回、掃除機で吸い込みまししょう。サッシ・雨戸の開け閉めと鍵のかかり具合は三ヶ月に一回点検・調整をし、開閉が重くなったら戸車にシリコンスプレーを塗布しまししょう。</p>
<p>室内全般</p>	<p>クロス フローリング・畳</p>	<p>普段は表面の汚れをはたき、掃除機などでむらなく掃除します。剥がれがあればクロス用ノリを充填し補修を行ってください。フローリングは、日常はカラ拭き。3～6ヶ月ごとにワックスがけを行いまししょう。（ワックス不要なフローリングもあります）畳はダニ・カビの発生防止の為、換気・通気や結露の湿気に注意しまししょう。</p>
<p>室内全般</p>	<p>室内ドア</p>	<p>5年毎に蝶番のゆるみ、可動部のシリコンスプレー塗布、建付調整を行ってください。</p>